上毛新聞から取材を受けました

2023年1月11日（日）の上毛新聞に「介護　カメラで夜勤負担減」についての記事が掲載されました。

《明日への一手　人口減に挑む》（３）介護　カメラで夜勤負担減 | 上毛新聞社のニュースサイト（jomo-news.co.jp）

（1）　明治20年創刊　第46149号　（明治25年3月28日第三種郵便物承認）

カメラで夜勤負担減

明日への一手　人口減に挑む　―3―

介護

「見守りシステムが最も力を発揮するのは夜勤時。安全確認のためベッドに駆け付ける回数が格段に減った」。特別養護老人ホームの「ことりの郷」と「ことりのはな」（高崎市）の佐藤毅然施設長(48)は情報通信技術（ICT）の効果を実感する。

▼見守り

両施設で導入しているシステムは、ベッド一部の壁面に設置した赤外線カメラで起床や離床などの動きを検知すると、職員が持つスマートフォンなどに知らせる。興奮状態となったり、夜間に行動し続けたりする可能性がある人も、付きっきりにならずに見守ることができる。

入所者の転倒を防ぎ、万一事故が起きた場合には映像から原因の解明と再発防止を図れるのも利点だ。転倒は骨折など身体的な影響だけでなく、防ぐことができなかった自責の念から職員の心理的なダメージも大きく、仕事を続けていく自信を失うケースもあるという。

夜勤時は職員が1人当たり20人ほどを担当しているが、介護保険制度から支払われる人件費に限度があるため増員は難しい。佐藤施設長は「見守りシステムは離職防止につながる。心に余裕があれば入所者への接し方も優しくなり、認知症の進行も緩やかになる」と強調する。

壁面のカメラや睡眠を計測するパッドなど、入所者を見守るシステムの導入が進む＝高崎市のことりのはな

▼導入補助

県は見守り機器を含めた「介護ロボット」の導入を補助している。2022年度に助成した378台のうち9割近くが見守りセンサーで、補助スーツやコミュニケーション用のロボットは少ないという。20年度からは介護記録などをデジタル上で管理する介護ソフトも対象とした。

特別養護老人ホーム「シエステさとの花」（高崎市）は県の補助を活用し、22年に新たな介護ソフトを導入した。食事やおやつ、水分の摂取量、排せつ、入浴といった日々の記録をタブレット端末に入力し、職員間で共有している。

同施設を運営する社会福祉法人のグループでは、技能実習生など外国人スタッフが13人働く。会話はできても日本語の読み書きは難しい人もいたが、介護ソフトは選択式の入力が中心で画像も簡単に取り込めるため、早い段階から記録を担当できるようになった。

人手不足が続く介護業界で、介護ソフトは欠かせない存在になりつつある。今井洋子施設長(55)は「新たな採用が難しい中、スタッフの負担軽減やモチベーションの向上につながっている」と力を込めた。

（真尾敏）